



プレーパークニュース

NO. 2



講演会「心の根っこは自然遊びで育つ

～プレーパークってなに?～を開催しました! 

◆日時 令和元年 11 月 30 日 (土) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

◆場所 長久手市平成こども塾 多目的室

◆参加者 大人 37 人 (同伴者: 小学生 13 人、未就学児 20 人) (申込者 43 人)

※ 参加者同伴の幼児・児童は、平成こども塾サポート隊創作班の協力により、工作 (松ぼっくりで X マスツリー作り) やぬり絵等をして楽しいひととき過ごしました。



講師紹介



講師 つかもとたけし 塚本 岳 さん (ニックネームはガクちゃん)

プロフィール概要 (特) 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員 東海担当

(特) こども NPO 副理事長

あいち森のようちえんネットワーク代表

リトルハウス 副代表他

愛知県刈谷市在住、3 女の父



講演会の内容 (まとめ)



1 遊びとは

- ・子どもは自ら育つ力を「本来」持っている。
 - その表現方法が「あそび」
 - 大人の「良かれと思って」子どもにしていることが、子ども自らが育つ力を奪っている。
- ・「遊び」とは何か。
 - 自分の意志で遊ぶことが大事。遊ぶことで自ら育つ力がある。
 - 遊ぶ = やってみたいことをする。
- ・大人の「せっかくだから」はいらない。 → 大人は遊びにも結果を求めがち。
 - 大切なのは、「過程」「プロセス」
- ・暇が遊びを生み出す。
 - 大人はスケジュールが埋まっていないと不安になりませんか？
 - 子どもたちは、暇に慣れていないが、暇が大事
- ・子どもたちは、なぜ遊ぶのか？
 - 遊びは何かのための手段ではない。 → 子どものエネルギー (= 目的) そのもの。
 - 子どもはばかばかしさを許容する。

2 リスクとハザード

→ 取り返しのつかない重大な事故から子どもを守ること。

・リスクとは

→ **予測・判断のできる危険**

(子どもの「挑戦してみたい」と思える残しておきたい危険)

・ハザードとは

→ **予測できない見えない危険**

(できる限り事前に排除しておくべき危険)

→ 大ケガ、後遺症、PTSDにつながる危険

例:突起物、腐食、天候、心理的要因、動線等による



具体例1:木登り

子どもが木登りの際に(ショルダーバッグ等の)ひもを首に巻いているとき

→ ひもを取る(枝に引っかかった場合、首を吊る危険がある)。

3 遊びの先にあるもの

→ 遊びは手段ではない、目的そのもの

(ただ、結果的にもたらされるものはあるかもしれない)

→ 大切なのは ・自分で考えること ・ルールも自ら作る

→ 自分のことが好きになる → 自己肯定感 → 自分への自信

➡ その結果

・自分を認める ・他者のいいところも認められる ・思いやり ・寛容性

子どもは遊ぶことで自ら育つ力がある。

→ 子どもたちが自由に遊ぶ(過ごす)ことのできる環境を整える。

教育と遊育

・ 教え育てる ←→ 遊んで育つ

4 子どもにとって遊ぶことは、とてもとても大事なことです。

遊ぶことは、子どもの権利 (子どもの権利条約第31条)

→ **冒険遊び場:プレーパーク**

・生きる力を育む ・非認知能力の向上 ・自然遊びの啓発

→ 自由に遊ぶことができる。

5 プレーパークのモットー

心が折れるより、骨が折れる方がまだ
(ケガと弁当は自分持ち)

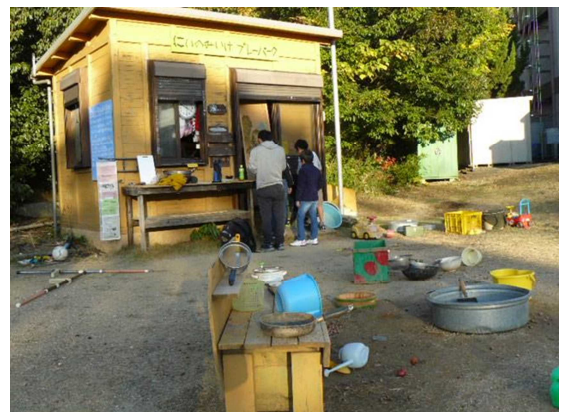
6 プレーパーク(冒険遊び場)について

・開催場所:全国に400カ所くらい

・運営母体:行政、委託、民間など

・開園日:常設、月数回、不定期など様々

・現場運営:専門職(プレーリーダー)、ボランティア(世話人など)



○共通点

- ・誰でも参加できる。
- ・無料(原則)
- ・いつ来ても、いつ帰っても良い。
- ・なるべく禁止事項をなくす。
- ・作り変えのできる自然環境が豊富

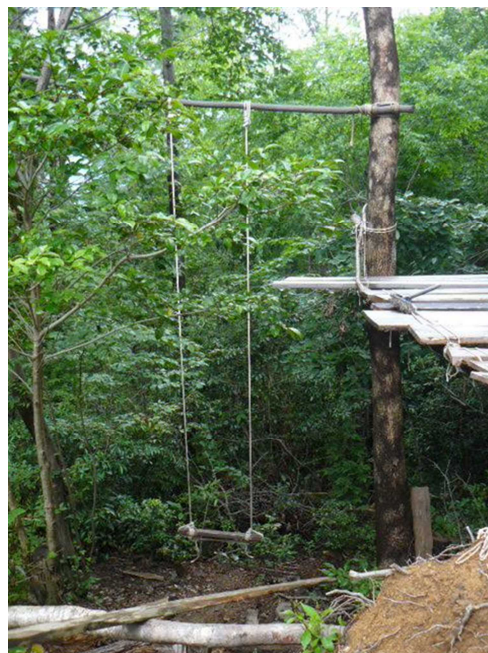
7 大切なこと

何をやるのかではなく、なぜこの地域でやるのか。

8 行政の仕事

→ お金(運営費)の確保
運営は民間に任せる。

行政の後押しの内容は、それぞれ地域で違う。



🌳 講演会 Q & A (要旨) 🌳

Q 1 プレーパークを交通児童館で実施するにあたって、プレーワーカー(リーダー)は必要ではないのか。(質問者:豊橋市内の交通児童館職員)

A 児童厚生員(児童館職員)がプレーワーカーである。

Q 2 あま市でこれからプレーパークを始めたいと考えているが、何から始めれば良いか。(質問者:あま市在住の男性)

A 同じ思いを持った人が、あと2組(人)いれば良い。そして、公園の使用許可は行政から取り、予定が許す範囲で実施すれば良い。また、近所にチラシを配布すると良い。あとは、行政とどのように付き合っていくかにより、実施数等は変わることがある。そのような形で始まっているところが多い。

🌳 参加者感想 🌳

- ・一緒に来た(子どもの)父親の心に響いたので良かった。
- ・子どもに対して世話を焼きすぎないことが大切と思った。
- ・子どもに対して良かれとやっていることがいらないとわかった。
- ・子どもにとっての遊びの大切さを改めて教えてもらった。
- ・存在すら知らなかったプレーパークのことを知ることができて良かった。
- ・近くにプレーパークがあれば我が子たちを行かせたい。
- ・プレーパークのことをもっと知りたいと思っていた。詳しく知ることができて良かった。
- ・長久手にもプレーパークに興味ある人たちがいることがわかったことが良かった。
- ・子育ての考え方を再考させられた。
- ・今この時代に必要な内容だと思うので話が聞けて良かった。
- ・プレーパークの本質が理解できたと思う。
- ・大人の役割は見守ること、という言葉が心に残った。
- ・自分の考え方が変わった。変えたい部分があった。

- ・ 子どもに対する気持ちが少し楽になった。子ども主体の遊びに時間をとれば良いとわかった。
- ・ 話しがわかりやすく良かった。

講演会の様子



講演会の様子



キッズスペースでの託児

おわりに

たくさんの方々にご来場いただき感謝します。

参加していただいた皆様が、お子さんと賑やかな中でも集中して講師の話しを聞いていらっしやったのが印象的でした。今回、参加者37人(大人)のうち18人(約半数)が長久手市内在住でした。

また、今後プレーパークについてのイベントを行う際に案内を希望された方も18人の方が希望されており、興味を持たれている方が多いことがわかりました。アンケートの感想も34人の方から回答をいただき、「参加されていかがでしたか」という質問に対して「とてもよかった」28人、「よかった」5人、「未回答」1人という結果でした。

プレーパークをまずは「やってみたい」という方がいらっしやいましたら、自薦他薦にかかわらずみどりの推進課または平成こども塾まで連絡をいただければ幸いです。最後に、意義ある講演会にいただいた講師やサポート隊のご協力にお礼申し上げます。 長久手市平成こども塾

【問合せ先】 〒480-1311 長久手市福井 1590-50 長久手市平成こども塾

☎ 0561-64-0045

email kodomojuku@nagakute.aichi.jp